

編集後記

第1論文執筆の江草千春は定時制高校というフィールドでの看図アプローチ実践報告を積み重ねています。江草は、いつも先行研究の緻密な分析をもとに研究をデザインしています。今回は「どうとうさぎ」絵図をビジュアルテキストにした先行実践を実施校種ごとにレビューし、その成果を定時制高校での実践につなげています。レビューと実践を組み合わせることで「看図アプローチの汎用性の高さ」を証明してくれています。江草論文は、看図アプローチの汎用性の高さ確かめるための方法論の提案としても有意義な研究になっています。

第2論文は石田ゆきの執筆です。看図アプローチは、様々な教科や領域に活用できる汎用性の高い授業づくりの方法です。それだけでなく看図アプローチは、ICTツールの活用においても高い汎用性をもっています。そのことをこれまでの看図アプローチ実践をレビューすることで確かめてくれています。「看図アプローチは、学習者に対しても授業者に対しても様々なICTツールに対しても汎用性の高い指導法として実績を積んできた。今後も、看図アプローチが、時代の波にも柔軟に対応できる指導法として発展していくよう研究を続けていく。」という結語が心強い有益なレビューになっています。

第3論文は、織田千賀子に「脳スイッチ」を押してもらって動き始めたプロジェクトの報告です。「江別冬景色」の写真を集め、織田に学習者役になってもらい予備実践を重ねました。その結果を基に組み立てたWSプログラムとともに、織田と重ねた予備実践の記録も報告しています。いつも看図アプローチの発展を牽引してくれている織田のセンスとパワーも伝わる仕上がりになっていると思います。鹿内信善・織田千賀子の共著論文としてまとめています。

<表紙を読み解く>

どうぞこの、満開に咲き誇る花たちを愛でてあげてください。そして余裕があったら、これから葉っぱになっていく「つぼみ」のようなもの「葉芽」を見つけてください。「葉芽」からは、これから主役になっていくために貯めこんでいるエネルギーを感じ取ることができます。そのエネルギーはすでに解き放たれつつあることも感じ取れます。このエネルギーを私の中にも取り込んで、様々な「芽吹き」に繋がっていきたいと思います。



看図アプローチは、これからもまだまだ発展していきます。多くの方々のお力添えのおかげです。ありがとうございます。今号に投稿いただいた先生方、そして今号論文にお目通しいただいた皆様にもたくさんの「芽吹き」が訪れますよう念じています。今回も表紙写真は「全国看図アプローチ研究会」専属アートスタッフ石田ゆきの作品です。いつもながらに多謝です。

文責 鹿内信善

—— 全国看図アプローチ研究会研究誌 28 号 ——

発行年月日 2026 年 4 月 29 日

編 集 「全国看図アプローチ研究会研究誌」編集委員会

石田 ゆき

伊藤 公紀

溝上 広樹

織田 千賀子

鹿内 信善*

山下 雅佳実

渡辺 聡

(* 印は編集代表)



発 行 全国看図アプローチ研究会

kanzu-approach.com

事務局長・編集長・DTP・表紙デザイン 石田ゆき